

# 名経大通信

第9号

2004年4月20日

名古屋経済大学

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/>

## CONTENTS

- P1-3** 特集 学部長鼎談  
いま、大学がめざすこと、  
学生に期待すること
- P4** FACE to face  
ゼミナール訪問
- P5.6** 卒業式レポート 輝く学長賞  
江崎君、高校教員に  
短期大学部から男子学生巣立つ

- P7** Topics  
伝統の合同ゼミスキー旅行
- P8** People  
「税理士として独立開業」OB谷口さん  
カンボジアだより
- P9** Information  
8会場で教育懇談会  
人事異動
- P10** Books & Author  
「イギリスの風景と暮し」  
「メンタルマップの現象学」



# めざすこと、学生に期待すること

春休みに、名古屋経済大学の三人の学部長（堀田経済学学部長、石井法学部長、丸山経営学学部長）にお集まり願ひ、日ごろ感じていることなどを語り合っていたきました。「近頃の学生はどうか」「本学の特性について」「これから力を入れたいこと」意見交換に希望、抱負をまじえて鼎談は二時間余にわたりました。



近頃の大学で感じたことや、感銘したことからお聞きしたいのですが。

石井 そつですすね、今年の一年生（〇三年度）は、目的に向かって何とか努力しているという姿勢が非常に強いです。法学部は、〇三年度、一学科にしまして、いよいよ今年度、四つのコースに分かれるわけですが、その目的の目的にかなった前進の仕方や意欲が芽生えてきたという印象があります。

丸山 二つあります。一つは、学生が教員の授業に対して意外に厳しく、シビアな目で見ています。授業内容の工夫や時間の厳守を求めているなど、授業に対する取り組みに対して、非常に熱心な学生がいるということですね。もう一つは、経営学部では会計特別研究室が〇三年度に発足して、それが契機で簿記三級の資格講座の受講生が十数人からおよそ二倍にまで膨れ上がったことです。こういう熱意を過性にしないで、ポテンシャルの芽を大事に育てたいと思っています。

堀田 たとえば、自分の授業はかなり厳しくはやっていますが、学生には熱心な取り組みが見られ、いい成績を取る人が増えてきました。特に、留学生が語学のハンディを背負っているにもかかわらず、日本人学生よりいい答案を書いてくる。それには本当に感心しました。いい刺激になって見習ってやってもらいたいですね。



堀田誠三経済学学部長 51年生まれ  
研究テーマ / 18世紀イタリアの歴史と思想  
趣味 / 乗馬・山登り

留学生の数が四月には百人を超え、国際化に拍車がかかってきましたね。

堀田 日本人学生との交流の場をどう作るかという工夫をしていかななくてはならないと思います。たとえば、コミュニケーションテーブルを作って、そこで語学の勉強が始まるとかレポートの添削を行うとか、学生から自発的な動きが出てくるのは理想的ですけれども、そういうお膳立てを学生部も含めてできないものかなと考えています。

丸山 留学生の授業やゼミへの出席率は、相当高いと思いますね。交流という面ではこちらが工夫しなければなりませんけれども、少人数教育のメリットを生かしたコミュニケーションを密にするという点では、うちは他大学よりは進んでいるような気がします。正月に自宅に招くなど、個々の先生も非常に配慮されていますね、全体としては留学生から信頼されているのではないかと気がしますね。

学生の生活について、何か気づかれていますか。

石井 極端なことを言うけど、少し効率のいいバイトをしようとするや夜間になっ

て、朝起きられなくて出てこないというパターンは一つあると思いますね。生活自体が便利になりましたね、ちょっと外へ出ると、コンビニとか娯楽施設とか、簡単に出入りできるような場所が増えてきて、外の刺激が多いと思います。

堀田 国民総睡眠不足と言われるくらい、生活リズムそのものが変わってしまっています。相対的に、学生の一日の生活の中で大学生活の占める比重が下がっているのではないのでしょうか。これは望ましいとはいえないのではないかと、まず、大学にいる時間を長くすることができればと思うのです。

石井 この大学は、少人数教育の良さがそれなりに機能してきたと思います。ただ、一昔、二昔前の学生と違うのは、指示されるのを待っている。自分自身で創意工夫して動くということが少なくなりました。学部学科にとらわれず、学生が面談時間をもっと活用してくれるとありがたいですね。

アルバイトに振り回されている感じもしますか。

堀田 ゼミで合宿をやるよという話になると、今の学生はバイトで固定された日程があるので、一か月くらい前から調整しなければならぬ。

石井 気持ちはいりたい、だけど、こっちにも都合がありますからね、と言われますよ。

堀田 けれども無理をしてやると、やったことは喜んでですね。そこが難しいところで、求めてはいるんだけど、

# いほ、大学が

## 学部長鼎談

丸山祐一 経営学部長 46年生まれ  
研究テーマ / アメリカ経営管理論の歴史  
趣味 / 散歩



バイトでなかなか実現できない。  
石井 個は大事にしてるんだけども、個と個の交流はあまり好まないというか得意でないといえますかね。ところが、無理やり、コンパや会食をすることで、そのあと殻みたいなものがポンと取れて、より濃い交友関係が続くというのは事実ですね。  
堀田 だから、こちらが殻を破る手伝いをしなければいけないという気がしますね。  
丸山 ここ数年の特徴ですね。当たりさわりのないというか、相手にこういふことを言うてはまずいなという、人づき合いがある意味ではうまくなったんだけれども、逆に深く関わることはお互いに避けるという傾向は強いですね。  
休みになると学生は、なかなか大学に出て来ないようですが。  
堀田 資格講座だとか、学生が大学の中に残って施設を利用して活動していくような仕掛けをこちらが作るということを中心に、「活性化」というお題目だけになってしまっています。  
丸山 学生のニーズを的確に捕まえないとなかなか難しいですね。  
石井 大学は、人が集まってくればあ

る程度汚れる場所です。このことに対して、少し神経質すぎるのではないかなあ。三、四年経って、卒業生が来たときに、何か包み込むような雰囲気ができるようにしなければいけないのか。今いる学生が何を望んでいるのか、学生の意見がある程度取り入れるシステムを考えた方がいいでしょう。全学生生活調査のような。  
堀田 学生も変わってきているので実態調査をやりたいですね。今の学生の意識を調べて、昔のものと比べてみるいい。

学生の授業中の私語がひところ社会問題化したこともありましたが。

堀田 ケイタイメールに移行し、いわゆる私語でやかましいというのは減りました。  
石井 極端な話、教室の向こうの隅とこつちの隅でメールをやってるわけですからね。

丸山 ただ、依然として私語はある。教室管理というのは教員の責任なんです。あなたたちを静かにさせるのは私の責任だから、注意します。授業をきちんとかやるんだという、教員の方にそういう自覚がないといけません。

堀田 しゃべると、講義を聞いている人にも迷惑だし、話し手にも迷惑だし、そういう迷惑だけは絶対かけるなと言っています。  
最近の大学の雰囲気、気づくことは丸山 世間に比べてそんなにハデとい

う感じもしないけれども、ケイタイを二つ三つ持っているのも当たり前だつていう感覚かな。

堀田 昔は一步入れば、何にもなくて、学校というのは独自の空間だったですよ。だから、他であつたように学外の人が入つてきて危害を加える事件が起こるといふことは考えられなかった。ここに一步入つたら、名古屋経済大学というところであり、教職員も学生もその一員なんだという意識は、希薄になつていくのだと思います。

丸山 ここは大学なんだと、違う場所なんだというところがないから、ここにちよつと長く居ようとか、学校に来ようとかいう気持・感覚がない。どこにいても同じなんだから、家で寝ていたほうがいいやと。やはり、大学は独特の空間でないと、学生ができるだけ学校でぶらぶらしていようなんて感覚や気持がおきないでしょう。

堀田 片じはつた新入生も、一年経つと、顔つきが少し変わってきます。書店や食堂の人たちとかいるんならとの対話を一年間繰り返していると、そこで学生の気持ちが変わってくる。そういう雰囲気、多少、自分の学校に帰つて来た気持ちがあるとかね、自分の居場所があるという感じをお互いに作りだす努力をしないとイケないわけですね。

各学部で、いまどのような教育をめざしていますか。



石井文廣 法学部長 48年生まれ  
研究テーマ / 日本と韓国の監査制度  
趣味 / ドライブ

石井 法学部では、〇四年度二年度から四つのコース制（企業法コース、国際関係法コース、行政政策コース、司法コース）になります。それぞれのコースごとに、基礎的な学力を必ずつけてもらつ、その上で応用力をつける努力をします。ロースクール（法科大学院）も課題として検討していますが、いまは、在学している、これから来る学生にどう基礎的な学力をつけさせるかが大切だと考えています。法学部の知名度はまだ低いけれども、入った学生に必ず満足してもらえらる学部をつくり、その評判が卒業生を通じて高校などにも伝わるようにしたいですね。

堀田 経済学部では〇五年度以降、いまのカリキュラムを見直す準備をしています。入学から卒業までの勉強の目的と道筋をはつきりさせ、きちんとした職業意識を身に付けて卒業できるような、カリキュラムを整備していくことを考えています。その場合、就職や大学院進学など、卒業後の進路に結びつけて勉強意欲を高めることが大切です。いまは、二、三年ごとに社会も学生も変わる時代。昨日のことに安住しては明日はありません。変化に柔

軟に対応できる大学にしたいですね。

**丸山経営学部長** 企業をまわると、会計、ファイナンスをきちんと勉強した学生に対する要望はたいへんに強い。そうした社会の要求に応えて、目に見える成果をあげることが求められています。経営学部では社会で活躍できるビジネスパーソンの育成を目標に掲げていますが、そのためには、基礎的学力と社会人としての市民的常識を身につけたうえで、なによりさまざまな職業能力につながる勉強が大切になります。そのため資格の取得をとくに重視し、授業と資格をドッキングさせると同時に、学部が取得をサポートする資格を明確にして、一年生から目標を定めて努力させるようにしていきます。

**少人数教育という点では、本学は恵まれた条件を持っていますね。**

**堀田経済学部長** たしかに学生数に対する教員の比率は他大学と比べると相対的に高い。多様な教員が多様なニーズにきめ細かく応えるという点では、有利な条件を持っています。しかし少人数教育というだけでは、今では不十分なので、少人数教育の中身を社会にアピールする必要があります。

**石井法学部長** 少人数教育プラスアルファですね。

**丸山** 少人数で何をやるかが問題。例えば資格取得をしっかりとフォローするとか。一般論にとどまっています。少人数のメリットを生かし、学生の力をつける教育の具体化が必要です。

**特別研究室の制度が発足しました。が、成果はあがっていますか。**

**丸山** 経営学部が最初で、二年前から会計特別研究室を始めました。意欲・能力のある学生に専用の部屋をあたえ、指導する教員をつけています。学生が和気あいあいと交流し、みな熱心に勉強に取り組んでいます。まわりの学生にもよい刺激を与えているようです。また、研究室に入る学生を推薦してもらったために何人かの教員が手分けをして周辺の高校をまわりましたが、そのなかで本学に対する厳しい意見もお聞かせいただき、教員の認識が変わってきたということもあります。これもある意味で成果かもしれません。

## 自治会委員長として

感じること

経営学部三年 今村伊久美

(長崎県出身)

学生自身は大学生活をどう感じているのでしょうか、自治会の今村委員長に話を聞きました。



長崎の五島列島で育ちました。父が名古屋で大学生活を過ごした影響もあり、島を後に

して、名古屋経済学大学に入りました。

入学して二カ月目、当時の石橋委員長から「どう興味ない？」と誘われ、副委員長選挙に立候補しました。児童会、生徒会の経験もあり、何かやりたいたと思っていたところでした。

一年後、副委員長から委員長になりました。大学祭、リーダー研修会、卒業記念パーティー、新入生歓迎パーティー、選挙準備と一年がすぐ過ぎます。

自治会には全く興味を示さない学生、バイトなどで余裕のない学生が多く、全体に帰属意識が薄いため、自治会組織の足固めが課題です。行事に皆を引きこみ、行事をきっかけに学内を

活性化させなければ、先輩たちが作ってくれたものが失われます。役員選挙や大学祭に先生方ももっと関心を深めていただきたいと思っています。

先生も「人間」ですが、私たちは人間としてより「先生」として見えています。そこは難しいところですが、学生とのコミュニケーションのとりに方にしても、「こうすればいいのに」と言いたくなるときがあります。

「学長と直接語りた」という声をよく耳にします。一年の時にトヨタ自動車の張社長が大学で講演され、質問を受けられました。ああいう雰囲気の話は魅力的です。

**堀田** 経済学部では今年度から地域社会特別研究室を発足させます。学部全体を活性化させる「核になる学生」が育つことを期待しています。やはり大学は勉強するところ。真剣に勉強に取り組む学生の姿は、よい影響を与えるはずですが、また私も高校を訪問させていただきましたが、そのなかで地域社会の核として学校は大切だということ、ひしひしと感じました。そうした地域や保護者の方々の期待を背負った学生を受け入れ、教育する責任の重さを心にきざむことができたという点で、自分自身勉強になりました。

**石井** 法学部は他学部の経験を生かしながら特別研究室を発足させる予定です。高校をまわって先生方と話をすることで自分たちの置かれた状況もわかってくる。高校訪問はそのためにも続けることが大切ですね。

## 最後に学生へのメッセージを。

**石井** 大学生活を生かすも殺すも、あなた方次第です。ここは一つ自分の秘められた可能性にチャレンジして見ませんか。あなた方の夢、希望がかなうなら、私たちは手助けの努力を惜しみません。

**丸山** とにかく体と頭を実際に動かし、具体的な目標に向けて行動することが大事、そのために教員を大いに活用してください。

**堀田** 学生の皆さんには、自分たちの大学をつくりだすため、「一緒に歩もう」と呼びかけたいですね。

## 裁判例を分析し

## 正しく理解

法学部

辻田芳幸ゼミナール

(知財ゼミ)

私たちのゼミでは著作権法や特許法などの知的財産法について勉強しています。具体的には、報告グループが裁判例を分析したものを報告し、それを元にどういう意味を持った判決かを全員で議論しています。報告グループは裁判例を正しく理解するために文献を調べたり、説明資料作りやグループ内での話し合いを行って準備を進

## 美術を通して

## 人間を考える

短期大学部保育科

小林修ゼミナール

私のゼミでは、美術を広い意味でとらえるようにし、美術を通して人間の生き方を考えるようにしています。

学生の意識や関心により、その活動内容を毎年若干変えるようにしています。学生の関心には幅があり、それを尊重することで保育



めます。他のメンバーは予め示された資料を読んで質問を考えてきます。ゼミでは正確な知識の獲得はもちろんです。筋道の通った考え方や他人に分かりやすい説明ができたかが特に重視されています。またゼミでは、勉強ばかりでなく「あらゆることに全力で取り組むべし」とされています。社会に出るまでに経験しておくべきことはたくさんあるからです。私たちは夏休みの終わり頃に、二、三泊で合宿に出かけています。もちろん勉強はしますが、スポーツ、魚のつかみ取り、バーベキュー大会な

ど盛りだくさんです。夜を徹して語り合ったこともいい思い出になりました。合宿の大まかな予定は決まっていますが、先生や先輩の助言を受けながら学生が計画します。ゼミ生間の意見調整、宿との交渉、詳細な計画立案などはいずれも貴重な経験になったと思います。

私たちのゼミでは日頃から三年生と四年生が一緒に行動し、また合宿や飲み会にはOBも参加するので、自然なかたちでアドバイスが受けられます。社会に出た後も、何をすべきかを考えて行動する姿勢が身に付いたように思います。

## フェイス・ツー・フェイス

の実践を念頭に置いた活動をしやすくして、学生の主体的なゼミ活動になるよう心がけています。

具体的活動としては、卒業研究としての制作作品の大学祭展示を主に、学生の美術的な関心を高めるために美術鑑賞、ゼミ旅行も実施するようつとめています。

昨年度は五月の連休を利用し、東京三鷹の森ジブリ美術館、武蔵小金井の江戸東京たてもの園、文京区にある印刷博物館（写真）へ出かけました。ちょうど、たても



の園で「千と千尋の神隠し原画展」を見ることができました。翌日訪れた印刷博物館の「残像が動きを生じさせる錯視の展示説明」では、前日の原画からのイメージと各自の記憶にある映像が結び、アニメーションの仕組みを学生はすっかり理解できました。学生の最初の目的はジブリ美術館にあったようですが、断片的な知識や関心が印刷博物館で総合的につながり、新たな関心を広げることができたゼミ旅行になったと思います。

# 輝く学長賞



平成十五年度卒業式は三月十八日、市野記念体育館で行われ、計八百四十一人（大学院七十五人、大学四百三十四人、短期大学部三百三十二人）が学位記、卒業証書を受けました。末岡学長は「すでに大学七千人、短大三万五千人の先輩が第一線で活躍し、皆さんの活躍は大学の存在価値を高めるための財産です。よりよい社会の実現に努めてください」と、はなむけの言葉をかけました。

卒業式では次の人たちが学長賞を受賞しました。受賞者とコメントを紹介します。

## 大学

### 学業優秀

経済学部消費経済学科	古橋直里
経済学部経営学科	鈴木雅登
法学部企業法学科	長屋純司
法学部国際関係法学科	小林寛幸
法学部国際関係法学科	矢田孝光

小林君はA「優」の取得率が九五・二%の好成績。  
「まじめに授業を受け、テスト範囲をくまなく勉強するように努めました。大学院の法学研究科に進みます」（小林君）

### 文化活動

津梁エィサー部

代表 中山武宗（経済学部）  
積極的な活動で本年度はロシアにも遠征、本学の名を高めた。

「ロシアは広大で個性ある国だと実感しました。卒業後は沖縄に帰り、お菓子の家業に従事します」（中山君）

### スポーツ活動

横井幸夫（法学部）

タッチラグビー部員。タッチワールド



カップジャパン2003の日本代表。ワールドカップでは三位でした。大学で初めて知った競技ですが、オーストラリアにも日本チーム選手として二度遠征しました。就職先は富士薬品です」（横井君）

### その他

中川純一（法学部）

TOEIC試験「国際コミュニケーション英語能力テスト」で高得点獲得。  
「機械メーカーに採用されたのは多分、英語のお陰です。海外勤務のチャンスがあれば行きたいと思えます」（中川君）

## 短期大学部

### 学業優秀

商経科	杉山嘉奈子
生活文化学科	伊藤奈美
保育科	丹羽理恵

### その他

平成十五年度大学祭実行委員会

代表 小島 舞（短期大学部商経科）  
「短大部自治会委員長」

「行事のタイトルは大学祭ですが、実質は短大祭になっています。大学ももう少し力を入れてください。就職は信用金庫に決まりました」（小島さん）



学長賞受賞者に後輩に伝える言葉を求めたところ、口をそろえたように「早い段階で自分のやりたいことを見つけ、その目標に向かって進むこと」という答えが返ってきました。

### 短期大学部から大学への編入

本学短期大学部の二年度学生を対象にした名古屋経済大学への特別編入学試験を次の通り実施します。詳細は入学広報部に尋ねてください。

募集学科 経済学部、経営学部、

法学部の各学科

願書受付 六月十八日～六月二十九日

試験日 七月四日

編入年次 三年次

特 典 入学金は免除

# 江崎君、念願の高校教員に



## 活気ある授業に 野球の指導にも力を

経済学部経営学科 ○三年度卒業

江崎 大輔



私は今年卒業し、四月から岐阜県立高山高校に商業担当の教諭として勤務することになりました。

人に教えることと野球が好きです。高校時代から「将来は教育職に就きたい」と思い、大学入学後は常に「教員免許状の取得」と「採用試験合格」を目標において勉強してきました。

部活動では、硬式野球部の主将・学生コーチとして活動しました。その業務はチームの代表とし

て連盟に出向くことや、活動スケジュールの調整、現場での指導と、今思えばとにかく苦勞の連続でしたが、目標があった私にとってはとても良い勉強の場でした。

教職の勉強は三年次になると模擬授業、四年次になると二週間の教育実習が始まりました。実際に教壇に立つと、人前で話すことが難しく、生徒の反応も弱いように感じられ、初めはうまくいきませんでした。

しかし時間が経つにつれて、私が話すことを生徒が理解してくれて思うように進み、面白くなってきました。教職に就きたいという気持ちにより確固たるものとなりました。

岐阜県教育委員会の採用試験でも、今まで培ってきたものが、「誰にも負けるはずがない」と思えるくらいの自信となり、「とにかく絶対教員になるんだ」という強い気持ちで臨むことができ、結果としてそれらが実を結ぶことになりました。

何ごともあきらめず、熱意と信念を失なうことなく続ければ希望はかなうものです。新任教員としての目標は活発な、活気ある授業をすることです。野球の指導にも力を入れたいと思います。

## 短期大学部から 14名の男子学生巣立つ

短期大学部では、平成十四年度から男女共学になり、今回の卒業式で初めて十四名の男子（商経科四名、保育科九名、現代コミュニケーション学科一名）が卒業しました。進路は、就職、大学への編入学、専門学校への入学などさまざまのようです。

蟹江裕文君(保育科卒・大府市保育士)

「保育士という職業に憧れて保育科に入学しました。男子は少数でしたが、同じ夢を持つ仲間と過ごした学生生活はあつという間でした。大府市では初めての男性保育士と

いうことで、女性の先生たちに負けないよう頑張りたいです。」

加藤央高君(現代コミュニケーション学科卒・専門学校に入学)

「大勢の女子学生に囲まれた中の大学生活はどうなるのか、心の中は不安で一杯のスタートでした。案の定、最初はいろいろな面で四苦八苦でしたが、日を追うごとに大学にも慣れ、先生方も話し相手になってくれました。授業ではコンピュータや心理学、法律など多くのことを学びました。短大で勉強したことを次のステップへと生かせるよう、専門学校においても頑張っていけます。」

## めいけい点描

### 丘は花ざかり

この季節のキャンパスにふさわしいタイトルをつけられ、「丘は花ざかり」ですか。

卒業式のころ、丘の斜面に広がるモモの栽培園が花を開き、名古屋経済大学がピンクや白に彩られます。主役はすぐソメイヨシノとヤマザクラに代わり、入学生を迎えてくれます。ゴールデンウィークが近づくと1号館を囲む手入れの行き届いた

ツツジがふくらみ、あちこちでトキワカゼ、アケビなどが咲きそろふ。六月には呉竹寮と1号館の間で白いクチナシの甘い香りに誘われ、また夏休み前には…。詳しくは短期大学の吉田幸代先生(生活文化学科)に尋ねてください。

鴨が泳ぐ池あり、素朴な石像の群あり、大学と人里「社会のつながりを感じます。「丘は花ざかり」という小説は映画や歌になりましたが、大学は四季の変化に富んだ舞台です。飛び立った先輩たちが人生の花を咲かせています。」

短期大学部では  
「前史」を含めて  
三十数年の行事

短期大学部保育科教授 船井廣則

今年も三月六日から三泊四日の日程で短期大学部合同ゼミスキー旅行が実施されました。この合同ゼミスキー旅行は今年度で、すでに十八回を数える伝統的な行事となっています。じつは、こうした形態で行われるようになる以前にも、この行事の前身というべきスキー行事がありました



80年代の山崎旅館（現在のホテル妙泉）

余暇形態の多様化にもなって、近年スキー人口は減少しています。こうした状況を背景に、この合同ゼミスキー旅行の目的や内容も、かつての「スキー技術の習得」から、寝食をとるにし共通の目標を持って集団で行動するという、最近の学生諸君が不得意だといわれている経験をする「場」へとその重心を移動させています。

た。市郡短大の時代に、課外活動の一環として本学の体育教員が企画するスキー合宿がそれでした。ただ、この行事は一九八五年一月、日本福祉大学の学生・教員二十五名の尊い命が奪われたスキーバス事故を契機に、全国的に体育授業からスキー行事が姿を消していく中で、それらと同様の運命をたどったのです。ところで、「前史」を含めてこの行事で三十数年近くお世話になっている宿舎は、赤倉温泉のホテル妙泉です。ホテルには行事の意義を理解してもらい、リーズナブルな費用で快適な環境を提供していただいています。上の写真はリニュー

大学では  
スキーを通して  
幅広い交流も楽しみ

法学部三年 小林敏子

私は、一年次の時にスキー初心者として参加したのが始まりですが、今年も一月末、三泊四日で開催された大学合同ゼミスキー旅行に参加しました。

初めて参加した時には滑れるようになるか心配でしたが、先生方の教え方はとても上手く、初めてスキーをする人のことを考え、分かりやすく丁寧に教えていただきました。おかげで、なんとか転ばずに滑れるようになり、スキーの楽しさを知りました。

今年には昨年に比べ、少しは上達し、中級コースにまで進入し、転びながらも、赤倉の広大なゲレンデを充分堪能してきました。また、学生の団体ということで、リフトを格安で利用できること、宿泊先の皆さんが親切で、暖かく迎えてくれること、そしてなんとと言っても食事の美味いことが魅力です。

今年には知り合いも多く参加しており、一緒に滑ったり、夜にはみんなでゲームをしたり、先輩から先生の話や話を聞くこともできました。また、



ホテル妙泉前で全員集合

先生方の部屋にも遊びに行き、いろいろなお話を聞くこともでき、スキー以外にも楽しいことがたくさんありました。この旅行では、スキー講習やさまざまな時間を通じて先生方の授業などでは見ることの出来ない一面も見ることで、また、先輩や他学部の皆さんとの交流の場として、今までと違った楽しい思い出を作ることができました。是非、来年も参加したいと思っています。

大学のゼミスキーは一九七九年度からはじまり、その後、ゼミ合同へと形を変え、つごう二十四年間続いています。

短期大学部・大学共に、スキー指導は、スキーインストラクターではなく指導講習を受けた本学教員が担当しているのも特徴です。



# いよいよ税理士として活躍

卒業生近況

## 十五年目に

### 独立開業

大学院OB 谷口雅和さん

平成十六年二月より税理士として独立開業しました。税理士を目指してから約十四年が経っていました。

高校三年の頃、大学・専門学校案内を見ている時に「税理士」を知り、興味を惹かれたのは「ステイタス」「高収入」という甘い文句だったと思います。

高校生活は遊びすぎた感があり、大学入試が迫って漠然と将来を考えたと、正直、いわゆる偏差値の高い大学に行くのは今からでは遅いと判断しました。なんとか大学に入学、その直前から簿記の専門学校へ通い始めました。大学生活は勉強もしましたが、バイトや遊びも人一倍した気がします。

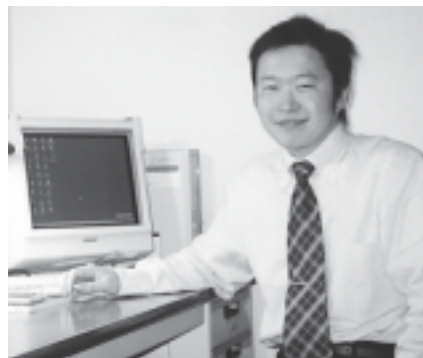
当然、就職は会計事務所に絞っていました。しかも、大規模事務所しか面接に行っていない。就職して、自分が目指した職業は間違っていないと確信しました。それ以降、「絶対、税理士になりたい」という気持ちが強くなりました。その「税理士」とはどういう職業なのか、実務十年で感じたことを述べます。

徴税は強制力があります。国民の義務でもあります。納税者には権利もありません。それが自己申告制度であり、税理士が存在する理由です。税理士は

税務のプロですが、経営者からはあらゆる相談が持ち掛けられます。

経営面では資金繰り、債権回収方法、従業員の労働条件整備・社会保険、助成金の受け方などに加え、生活面では住宅を購入したい、年金はどういう仕組みになっているのか、生命保険・損害保険は何に、幾ら加入すればよいのかなど相談は多岐にわたります。

これらの相談に一人で、すべてに対処できるわけではありませんが、経営者にとって



れば、誰にでも自分の内情を話したいわけではありません。そうであれば、自分一人でも最低限の幅広い知識が必要です。例えば、税務では有利との判断で処理したことが年金において不利になるなど、多角的視野で考えないと、結果として不利になることは多数あります。

し、人脈を作っていくことも必要とあります。

私は二年前に大学院を修了していますが、今でも、新美憲法ゼミや他ゼミ生と交流があり、今後も交流を続けていきます。

### プロフィール Profile

平成六年、朝日大学卒 平成十一年、朝日大学大学院経営学研究所修了 平成十四年、名古屋経済大学大学院法学研究所修了  
〔資格〕  
税理士、CFP®、1級ファイナンシャルプランニング技能士、宅地建物取引業主任者、管理業務主任者

## カンボジアだより

from Cambodia  
一九二〇年代まで王とその廷臣によって治められてきたこの国は、隣国のベトナムやラオスと共にフランスの植民地となり、フランス人のインドシナ総督が発する総督令が王の勅令に代わりました。一九四〇年代から五〇年代にかけてフランスからの独立を目指したカンボジアは優秀な若者をパリに留学させ、フランスに就いて近代の知識や技術を持ち帰らせて政治的独立と経済的自立の実現を目指しました。パリ・セーヌ河畔には



いまでも彼らが寄宿した「インドシ

## 法学部助教授 四本 健二

ナ留学生会館」が残っています。そして法学を学んだ学生達は帰国後にカンボジア司法省やブノンペン大学法学部に就職し、この国の法制度の発展に大きく寄与しました。この国の法律にフランスの影響が色濃く残されているのはこのような経緯によるものです。ところが一九七五年から七九年の民主カンボジア政権時代に彼らは「西洋の害毒に冒された人民の敵」として粛清の憂き目にあい、ようやく同政権が打倒されたとき、生きて司法省に帰ってきた法律家はたった十六人に減っていました。

一九九〇年代初頭に包括的な和平合意が成立して国際的なカンボジア復興援助が開

組んだのはかつての植民地宗主国フランスでした。九七年からは日本もカンボジアの民法と民事訴訟法の起草に協力することになり、司法省のスタッフを留学生として受け入れる傍ら、日本の民法学者・民法法学者とカンボジア人法律家がカンボジアと日本との間を行き来しながらの起草作業がすすめられました。

こうしてできあがった民法草案(三〇二ヶ条)、民事訴訟法草案(五七二ヶ条)は今やカンボジア国会による採択を待つ段階にきています。つぎは民法や民事訴訟法を機能させるためのきちんとした登記制度、公証制度、戸籍制度などが必要になります。起草作業に携わるカンボジア人・日本人にはもちろんばらばら両国の間を行き来してもらわなければならないようです。



静岡会場(浜松市)

# 8会場で教育懇談会 じっくり保護者と面談

保護者の方々と親しく接し、教育方針とその内容を理解していただくことを目的とした「教育懇談会」は、本学と地区別に開催する形で定着しています。平成十五年度は八会場に増え、出席者は前年度の約三割増の計四百三十二人に上りました。

各学部・学科からゼミナールの担当教員が参加し、個々の面談で学生生活に対するさまざまな質問に答えました。

また、アンケートにより貴重なご意見、ご感想をいただくことができ、参加者の一人として心強く感じました。

感想の多くは、「ゼミナール担当の先生と話ができて、大学での具体的な生活が分かって安心した」、「家庭と大学間がとても身近に感じ

られるようになった」、「今後の家庭での接し方の参考になった」などでした。

ほかに、地方会場において「地元での開催は参加しやすく、大変ありがたい、是非続けていただきたい」と要望があり、北陸会場とは別に福井会場（次年度は富山）を増設したことはことに喜ばれました。

また、面談時間は一人あたり十〜十五分ですが、「話が充分できた」、「時間が足りなかった」、「待ち時間が長かった」とご意見はいろいろでした。

今後は、懇談会の内容の充実を図るとともに、会場の設定や開催時期、面談の時間配分などを考慮し、一人でも多く参加していただける懇談会にしていく必要があると思います。

短期大学部助教授 千田百合子

平成十六年度教育懇談会は五月二十九日（土）本学で後援会総会とともに行われます。担当教員との個別面談を中心に情報・意見交換を行います。図書館、情報センター、就職資料室などの見学を通じて、キャンパスの雰囲気を感じ

## 今年度の教育懇談会 五月二十九日、後援会総会も

取っていたら幸いです。

次いで六月十九日（土）沖繩会場、同二十六日（土）富山会場が決まり、後半の長野会場、三重会場、北陸会場（金沢市）、静岡会場、岐阜会場については期日未定です。

### 名誉教授に

## 室井、辻本、酒巻、吉本氏

名古屋経済大学は四月一日付で室井力、辻本興慰、酒巻俊雄、吉本隆子の四先生を名誉教授とすることにし、三月十二日、病氣入院中の室井先生を除く三先生に末岡学長から辞令が交付されました。

室井先生は平成五年、法学部教授に就任。大学院副学長。

辻本先生は昭和五十二年、法学部教授。大学院副学長。

酒巻先生は平成十二年、経済学部経営学部教授。

吉本先生は昭和五十五年から短期大学部着任。六十三年から教授。

吉本隆子先生



吉本隆子先生



酒巻俊雄先生



辻本興慰先生

### 人事異動

【大学】  
〔昇格〕平成十六年四月一日付  
経済学部 助教 助教  
助教 助教  
園田 正  
原田裕治

〔転入〕平成十六年四月一日付  
短期大学部より経済学部へ教授  
吉田啓子

〔退職〕平成十六年一月三十一日付  
平成十六年三月三十一日付  
室井力  
酒巻俊雄  
辻本興慰  
山口進彦  
相川 修  
榎原秀訓  
久保田安彦

【短期大学部】  
〔新任〕平成十六年四月一日付  
生活文化学科 教授 山下和雄  
教授 坂井田宏  
教授 中野紀和男  
教授 早川麻理子  
助教 吉本隆子  
助教 高橋典子

〔退職〕平成十六年三月三十一日付  
安岡優紀  
国本由紀子

【幼稚園】  
〔新任〕平成十六年四月一日付  
教諭 安岡優紀  
教諭 国本由紀子

【事務局】  
〔新任〕平成十六年四月一日付  
事務局長・情報センター長ならびに  
広報編集委員長 佐々木龍夫  
図書館 部長 加藤達也  
図書部 書記 山田克二  
入学広報部 部長 加藤 忠  
〔転入〕平成十六年四月一日付  
本部より経理部へ 主事 市川和美  
〔退職〕平成十六年三月三十一日付  
事務局長 末岡 脩  
部長 加藤正弘  
嘱託校務員 田中弘美  
嘱託校務員 今枝三津子

## 本学の先生たちの著書です

### 「絵と文による イギリスの風景と暮し」

日比野雅俊（経営学部教授）著

日本文学館



本書は「画文集」であり趣味の書である。絵は著者が一年間のイギリス滞在中に描きためたもので、構成はイギリス中部を中心に南のドーヴァーから最北の街サーソまで英国各地の風景画五十四枚からなる。

また、絵の並びは著者がイギリスに着いた一九八九年四月から翌年の三月までとなっているので、順を追いながら季節の変化も味わうことができる。さらに各風景画にはその説明や、折々の思い出話も加えた。平易な文であるので、絵を眺めながら気楽に読んでいた

だけである。著者の趣味を問われれば、「写真、絵画、囲碁」となるであろうか。絵を描くことは小学生時代から好きであったが、「子供らしくない絵」

ということでも入賞経験は一度もなかった。これは子供心をずいぶんと傷つけたが、高校時代、美術教師の誉め言葉によって自信を復活させた。だから、名古屋大学に進学したときには迷わず美術部に入部し、とくに教養課程の二年間は留年も覚悟するほど絵を描くことに明け暮れた。

名古屋経済大学の留学規定により著者がイギリス中部のマンチェスター大学地理学科において在外研究をしたのは、前記の一年間である。著者は自然地理学と環境科学を専門としているので、各地を旅行し風景を眺めることは重要な仕事の一部といってよい。そして著者が最も注目したのは英国人に共通する景観保全の精神である。

その端的な例は景観汚染の最たる広告看板がどこにもないことや家屋の形態的・色彩的調和である。また、郊外型大型店の制約された活動は、各地の街や村の個性的な景観の創出を可能にしている、説明文には在英当初の苦労話や失敗談も含まれるが、本書の基底をなすのは著者の自然科学者としての目を通した景観論であり風土論である。（二三三ページ）

### 「メンタルマップの現象学」

中村 豊（短期大学教授）著

古今書院



地理学は不思議な学問である。それは地球上に起こっているすべてが学問の対象だからである。その地域の気候や地形は自然地理学と呼ばれている。また、その地域の農業、工業、商業などの展開は経済地理学と呼ばれている。そして、その地域の風俗・文化のあり方は文化地理学とか人文地理学と呼ばれている。さらに、それらを分布図などで表現する地図学も地理学の一分野である。つまり、地理学はその地域で起こっていること

の他の地域との違いと共通性を、言い換えれば、その地域の多様性と普遍性を総合的に理解する学問である。

本書は、そのような地理学の一つの研究領域であるメンタルマップ

プについての考察である。メンタルマップとは、精神の地図とか頭の中にある地図のことである。一般に、メンタルマップと対比されるのは、客観的な地図である。多くの場合、客観的な地図は正確なものほど良い地図と考えられており、同じ距離の地点は等距離にある。

ところが、メンタルマップにおいては必ずしもそうになっているとは限らない。たとえば、名古屋から東京と名古屋から岡山とはほぼ同じ距離であるが、ある人には東京が近く、別の人には岡山の方が近いと感じられるかもしれない。このように人によって異なる地図を研究しようとするのがメンタルマップ研究である。

これまで、メンタルマップは心理学や認知科学的アプローチによって分析的に研究されてきた。その結果、メンタルマップの個人差や共通した歪みなどの知見が得られてきた。

そのメンタルマップを、ドイツの哲学者で現象学の創始者であるフッサールが提示した観点から整理しようとする試みが本書の目的である。（二三三ページ）

平成十六年度の大学院、大学、短期大学部合同入学式は快晴の四月一日、市邨記念体育館で行われました。

新しく制定された「名古屋経済大学歌」を全員で斉唱し、末岡学長は、新進気鋭の皆さんを迎え、この上ない喜びです。授業への出席を第一に心がけ、次にスポーツや文化に取り組み、友人との交流の中で若さを謳歌してください」と告辞を述べました。

続いて、入学生を代表し、福井謙二君（経営学部）と馬渡由貴子さん（短期大学部保育科）が、さまざまな出会いを大切に、情熱と創意工夫の豊かな学生生活を送ろうと思います」と宣誓しました。市邨中学校・高等学校の吹奏楽部の記念演奏が満場の拍手を受けました。

入学生の内訳は次の通りです。

【大学院】法学研究科、会計学研究科の計八十二人  
【大学】経済学部現代経済学科百人、経営学部経営学科百三十二人、法学部法学科百八十六人、編入八人、計四百二十六人。

【短期大学部】商経科、生活文化学科、保育科、現代コミュニケーション学科の計三百十九人。

なお、大学には外国人留学生二十八人が含まれ、短期大学部には男子学生二十六人が入学しました。



## 入学式



### 人力車に約百人乗せる、同窓会と在学生が奉仕

名古屋経済大学同窓会の主催により二月二十八日（土）、犬山城前で観光客を人力車に乗せるボランティアが行なわれました。

「地元との交流を深める」という活動目標を掲げる同窓会の山田拓郎会長ら四名、大学からは加藤弘司、日影隆太、梶谷英久、山本貴彦の四君が参加。料理店の接客用の人力車を借り、お年寄りや親子連れなど約百名を乗せました。

法学部の山本君（現在二年）は四日ほど練習。「バランスをとるのが難しい。色々とお話ができ社会勉強になります」と話していました。



### 学内企業展に66社、学生の参加数は過去最高

平成十五年度学内企業展は六十六社の参加を得て、二月二十日、プラザで開催されました。参加の大学生は二百七十二名、短期大学部生五十一名と過去最高の数を記録しました。開場と同時に熱気に包まれ、四時間余、企業の採用担当者や真剣に語り合う姿が印象的でした。

実質的な就職活動の第一歩となる学内合同企業展は、インターネットあるいはブックレットの会社案内では把握できない企業の「素」の部分に触れることのできるまたとない機会です。

この面談を通じ、今までピンと来なかった就職の感触を得た学生、企業の厳しさを痛感した学生、進路先が明確になった学生など、有意義な一日になったことと思います。

